

ケースカンファレンス 3 (疫学)

青い鳥こどもクリニック 引田 満

インフルエンザワクチン (4 価) は毎シーズン、その有効性が評価されています。流行が予測されるウイルス株に合わせて毎年ワクチン株を選定しているため、そのワクチンがどれだけ有効であったのかという検証は必要ですし、今後のワクチン株選定にも生かされてくるはずです。「インフルエンザワクチン有効率」には誤解も多いようですので今回取り上げてみました。

インフルエンザワクチン非接種 500 人、接種 200 人の集団に対して、その後インフルエンザを発病したか否かの調査 (前向きコホート研究) を実施したところ、下記 A および B の結果を得たと仮定します。

A : 非接種者 500 人 \longrightarrow 125 人が発病
B : 接種者 200 人 \longrightarrow 20 人が発病

集団の年齢分布や居住地域、接種回数などは今回不問とします。ワクチン有効率は何パーセントとするのが妥当でしょうか？ 下記から選んでください。

- ① 60% ② 75% ③ 82.5% ④ 90%

